

編輯室の内外

焼くやうな夏、夫れは今夏に體験するこ
とが出来得なかつたが、暦で立秋と報じた
ときから眞の夏氣分を味ふやうに爲つた、
矢張り暑いときは暑く寒いときは寒く
なければ承知が出来ない人間だから、不順
は嫌だ、此不順を豫想した譯では無かつた
が、道路鋪装講習會は不順を利用して涼し
い時期に終了する積りだつたが、天道我に
籍すに矢張り自然な以てして、層一層に暑
さを増した。で、聽講した諸士は暑かつた

であらう、併し聽講した科目は、暑さで焼
け解かして頭に注入されたことゝ察するか
ら、此講習會も多大の效績を収めたと言つ
て可い。

昭和四年の七月以來、筆を止めてゐた田
中好氏の「東海道行脚」の續きを又本號か
ら登載することにした。餘り永い間擲筆さ
れたので、田中は耄碌したのではないか、
いつまで酔つぱらつて居るのかと、色々な
攻撃的投書を戴いたが、眞實を探つて見る
とソレではなかつたらしい。併し今回の筆
を執るに方つては、愛知の宮島土木部長始

這般内務省土木局から公表された道路鋪装
の仕様書を主として集録し、之に關連して
必要な法令乃至は内規を集録したのであつ
たが、何分期日切迫の折に上梓したので隨

分澤山な誤植があるらしいが、是等は何れ
も正誤表を添付して訂正しておいた、編輯
係として寃に済まないが、出版當時の事情
に同情を願つて御寛怒を得たい。尙出版し
た以外の鋪装仕様に就ては土木局で銳意研
究中であつて、其の確定も遅くはない、何
れ発表あり次第本誌の附錄として配本する
であらう。

め仲元、星野君やら三重の齊藤君、滋賀の
櫻井君に一方ならぬ厄介に爲つたから御禮
を言つて呉れとの依頼だから、田中君に代
つて茲に御禮を申上ぐる次第。

一記者が筆してゐる「地方廳を訪れて」
も隨分地方を騒してゐるやうだ、田中君が
書いてゐるやうに言ふ人もあつて、頗る迷
惑するから夫れで無いことを公表せよと、
同君から迫られたので、編輯子は同君の筆
で無いことを茲に公表する。

一本誌 定價 五十 錢
一ヶ年分 金 六 圓

東京市麹町區大手町一丁目 内務省内
發行所 社團道路改良會
東京都豊多摩郡代々幡町幡ヶ谷三五六
發行兼 編輯者 東京市小石川區諏訪町五六
印刷所 堀江關武常磐印刷所